

北陸地方の「山地(山沿い、山間部)の降雪量の見通し」の解説

1. 概要

北陸地方の「山地(山沿い、山間部)の降雪量の見通し」は、北陸地方(新潟県、富山県、石川県、福井県)の山地^(注1)の向こう1か月の降雪量を、アンサンブル予報をもとに平年比で予想します。予想は、図形式で降雪量平年比の確率密度と累積確率を、文章形式で出現する可能性が最も高い階級(少ない・平年並・多い)とその確率を示します。

(注1)対象地域は、注意報・警報区分の、「山沿い」、「山間部」、「山地」の地域。ただし、石川県能登地方の山地は対象地域外とします。

2. 図の見方

図1は、図形式の表示例です。図中の**橙の線**は、山地降雪量平年比の、予測資料から推定した確率密度で、さらにそれを(-∞から)足し合わせたものが、**赤の線**(累積確率)です。

この図からは、ユーザー各々のニーズに合わせて、任意の降雪量平年比に対する予想される確率を知ることができます。たとえば、横軸の 80%に着目します。横軸 80%の線を縦軸方向に上へ見ていくと、およそ 45%のところ**赤の線**と交わり、向こう1か月の降雪量平年比が 80%以下となる確率が約 45%(逆に平年比が 80%以上の確率が約 55%)ということが読み取れます。また、水色の領域は平年並の範囲で、その両端と累積確率の曲線が交わる**ところの確率**を見ることで、平年より少ない確率や多い確率のおおよその値を読み取ることができます。加えて、参考のために、平年並の範囲から正規分布を仮定して推定した気候的な確率密度(**青の破線**)と累積確率(**緑の破線**)を示してあります。

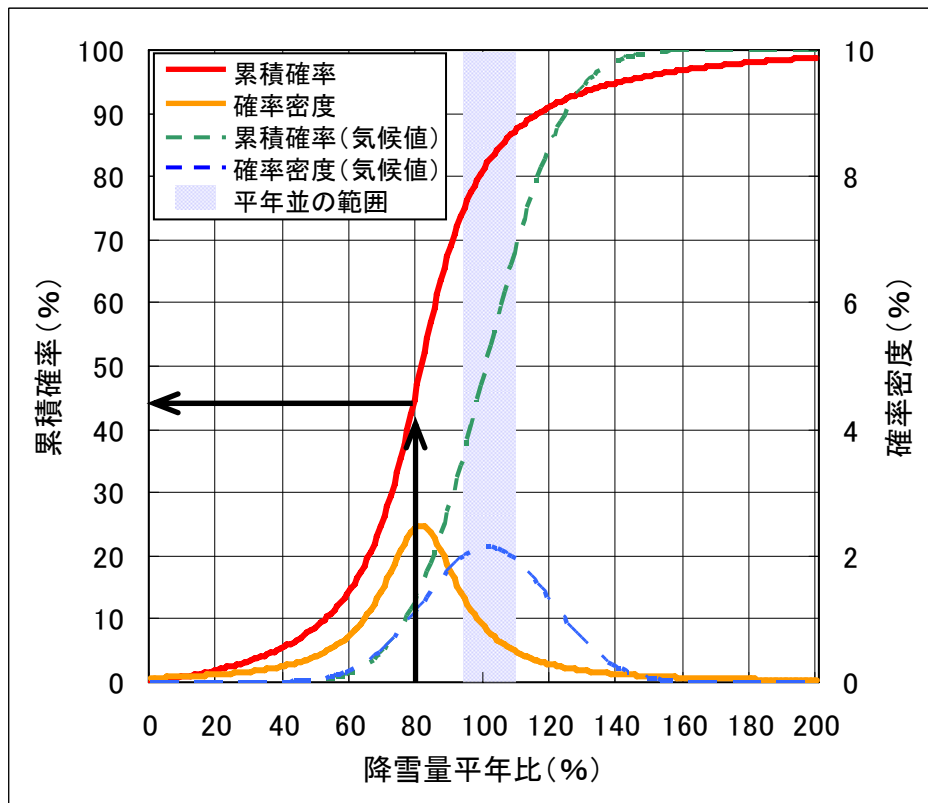


図1 図形式の表示例

<参考資料>

○「山地(山沿い、山間部)の降雪量の見通し」で用いているアメダス地点の降雪量平年値

1 か月予報発表日ごとの、向こう 1 か月合計の降雪量平年値をグラフで示していますので参考にしてください(2月29日の平年値は含めていません)。平年値は1981年～2010年の観測値をもとに求めています(観測開始年が1981年より遅い地点があります)。

